むなかた

葉月（はづき） 第690号

目次

神宝館特別展 3・2
宗像国際環境一〇〇人会議 4
神宮神宝より紐解く 5
神宝館だより・新人巫女紹介 6
宗像大社歌会詠草 7
御造営奉賛者御芳名 7

よって、昨年七月、『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群が世界文化遺産に登録され、一年が経った。世界遺産の目的は人類全体のための遺産として損傷、破壊等の脅威から保護し、保存することである▼沖・中・辺の宗像三宮と新原・奴山古墳群で構成された関連遺産群において、核となる沖ノ島は宗像大社が所有する島であり、現在神職以外の渡島を許可していない。つまりは立ち入れない遺産なのである▼限られた人しか上陸できないことから、四世紀から九世紀の間の祭祀遺跡が現代まで残されている価値を公開できない。しかし、後世への保存という点ではこの上ない環境である▼他国における登録遺産では、周辺開発により遺産に対する神聖性や景観が損なわれ、普遍的価値が失われたとして抹消、またはその可能性が検討されたものがある▼本遺産は登録一年であり、今後も多方面の方々の協力無しでは維持できない▼今日まで残された沖ノ島の環境と今後の保存にご理解戴きたく、現在当社神宝館で開催している特別展をご覧になり、沖ノ島の神宝と写真から伝わる価値を感じてもらいたい。（壹）

神宝館特別展「沖ノ島国宝×藤原新也写真展」開幕

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群 世界遺産登録一周年記念、神息吹く巨岩と深遠の森「沖ノ島国宝×藤原新也写真展」が七月二十一日に開幕した。

二十日には福岡県副知事・大曲昭恵氏、宗像市長・伊豆美沙子氏を始め、後援・協賛各団体より五十名程にお集まり頂き、開幕前の内覧会を開催した。

神宝館一階・二階には沖ノ島出土の国宝、三階は藤原新也氏撮影の沖ノ島写真を展示。藤原氏は沖ノ島での撮影を振り返り「禁足の森に入って驚いたのは、そこが古代より放置された場所であるにも関わらず、荒れ果てているのではなく、秩序が保たれていたことである。」と述べ、また「人為的に環境が破壊される現代において禁忌に守られてきた神々しい島の存在を感じて欲しい」と語っていた。

約三年間かけ、修理をした国宝・「金銅製雛形五弦琴」は七年ぶりの公開。特別展に向け準備した特別ケースに飾られ、まるで浮かんで見える金製指輪をはじめ、国宝は約五、〇〇〇点。藤原氏の写真は六十二点を展示し見所は盛りだくさんである。

行くことの出来ない沖ノ島。神宿る島の空気感を感じることのできる藤原氏の写真。そこで出土した国宝を御覧頂き、古代の息吹を感じていただければ幸いである。

宗像大社神宝館特別展

世界文化遺産登録1周年記念
神息吹く巨岩と深遠の森
『沖ノ島国宝展 × 藤原新也写真展』
□期　　間
平成30年7月21日(土)～11月30日(金)
□開館時間
9:00～16:30(最終入館16:00)年中無休
□拝 観 料(施設維持協力金)
一般800円、高・大生500円、小・中生400円

MUNAKATA Eco - 100
International Symposium
2018

宗像国際環境100人会議2018

第五回 宗像国際環境一〇〇人会議
水と命の循環～自然への感謝と畏怖

昨今、国内外問わずメディアに盛んに取り上げられている「マイクロプラスチック問題」。これは普段私たちが何気なく使っているプラスチック製品の不法投棄などの様々な要因で海へ流れ、五㎜以下のマイクロプラスチックという小さな破片になり無数に漂い環境を破壊している。実は毎日使う歯磨き粉、洗顔料、洗剤などにもプラスチックの粒子が含まれている。

海外に目を向けるとＥＵにおいては使い捨てプラスチック製品の使用を禁止する法案の策定。またスターバックスは二〇二〇年までにプラスチック製のストローを廃止する等、このマイクロプラスチックの及ぼす環境問題はＧ７やマスコミ報道で取り上げられ世界各国で問題が周知され始めている。

宗像国際環境一〇〇人会議の中でもこの問題について取り上げており、海岸清掃プログラムのなかでその存在は確認している。同時に海水温の上昇や磯焼け現象など、地球の約七割を占めている海をとりまく環境は日々悪化している。

日々悪化する自然環境を保全するため、環境に意識の高い団体、個人、企業、研究者、自治体等で構成される宗像国際環境一〇〇人会議。第五回目となる本年は、「水と命の循環～自然への感謝と畏怖」というテーマで、八月二十四・二十五・二十六日の三日間開催する。

自然環境を守って行く活動は自然の恵みへの感謝。そして大自然を畏れ、自然に対して謙虚な気持ちになることにも繋がっている。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

第五回宗像国際環境一〇〇人会議
平成三十年八月二十四～二十六日
http://munakata-eco100.net
宗像国際環境会議実行委員会
事務局長　養父信夫

神宮神宝より紐解く 8

元神宮式年造営庁技師　釆野　武朗

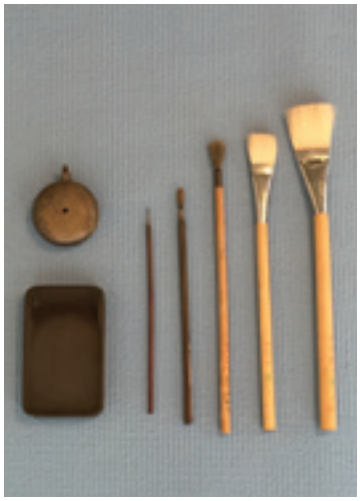
装束神宝調製の手順　製作図面（一）

遷宮において神々に奉献する新たな装束神宝の調製は、先ずしかるべき時期に調製者に交付する製作図面（以下図面）を神宮当局において全て新たに肉筆で描く事が、次回遷宮を控えての調製の第一工程となります。

第六十二回を例にしますと、六十一回遷宮が終わったあと約二年間を要した諸々の残務整理の作業が一区切り着いたところで、いよいよ次回の為の図面製作に着手いたしました。図面は装束神宝の形状とその構造、付属部位の形態、またそれらに装備される装飾品の文様等を原則的に原寸大で表示します。この図面の原典は前述の古儀調査の答申に基づいて昭和四年（一九二九）度に制定されたもので、この折描き起こされた一連の図面が神宝装束部によって庁内に厳重保管されています。

これらの図面を順次保管庫から取り出し、一枚ごとに慎重に描き写し（トレス）てまいります。この作業は御料調製を担当する技師にとって厳粛にして且つ重要な工程で、歴代先輩技師が引き継いできた御料調製における理念を再確認し、その道程を継承する大事な場となります。六十二回の折りにはこの図面製作に取り組んだ数年間は、外部との接触を可能な限り減らし、図面との対峙の中で次回の御料調製の方策を充分にめぐらし、来たるべき本格的準備の時期に備えました。個々の御料調製者はわが国で最高の技術を保持する練達者である為、当方から交付する図面が技師の手によって作製され更にその技術、描画姿勢は厳格につき、調製者は交付された図面から御料の造形と要求される技術水準のあるべき全てを理解します。またこの御料調製が正にただならぬ御事であり、この特別な仕事に相対する覚悟がこの時調製者の魂の中に確かな形となり落ちてゆきます。

図面製作に使用する用具は、和紙仕様のトレーシングペーパー、彩色用和紙、各種定規（造神宮使廳当時に装束神宝図面の為に用意された特殊定規も含む）、各種烏口（からすくち）、太筆から極細筆に至る各種毛筆と刷毛、墨、硯、日本画用絵具とそれらを使用する際に必要な絵皿、膠（にかわ）等の画材用具があります。しかし近年図面製作に必要とされる用具類も装束神宝の調製素材と同様に入手に時間を要したり困難をきたすものも現れ始めていて、図面製作で最も主きをなす和紙仕様のトレーシングペーパーにおいては製造技術者の高齢化を理由に数年前からこの種の生産が打ち切られております。その為次回第六十三回準備に際しての図面製作においては、先ずこの種の用紙の入手手段を切り開いてゆかなければ遷宮準備の端緒の時点で足止めを余儀なくされる事になります。



図面製作に使用した用具類の一部

神宝館だより 16
八万点ノ国宝収蔵

源頼朝書状

元暦二年（一一八五）八月五日

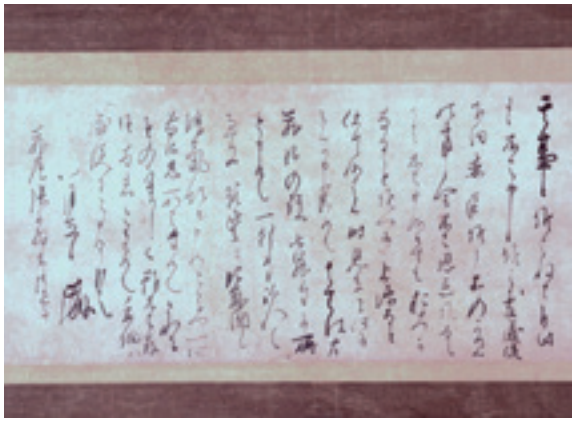
歴史上の有名人のひとり、鎌倉幕府を開き武家政権を樹立した「源頼朝」の手紙である。

源頼朝は、この年の三月に壇ノ浦合戦で宿敵平家一門を滅亡に追い込み、十一月には新たな世の第一歩となる守護・地頭という地方官を全国に設置する。この手紙は八月の日付であるから、その間に出されたものである。

宛先は「前尾張少将」、名前は藤原隆頼で反平家の立場に立っていた人物であった。このことを踏まえると内容の理解に迫ることができる。つまり、源頼朝は平家滅亡に関する藤原隆頼の功績に対して、昇進の口添えをしたことと、肥前国晴気（佐賀県小城市晴気）という領知を与えることを、この手紙で伝えているのである。

この手紙が宗像大社の所蔵であることについての説明も必要である。晴気領は隆頼の子孫が代々領有していくが、宗像大宮司長氏に嫁いだ女性が晴気領の相続者であった。彼女は長氏との間の息子松法師（長じて大宮司氏盛）に晴気を譲り、同時に代々受け継いできた、領有権の証文類も与えたのである。宗像大社には、晴気領の相続を示す証文が二十通以上現存している。

なお真贋についていえば、もちろん直筆ではないが内容には矛盾や破綻はなく、贋作ではないと考えられる。（河）



源頼朝書状

新人　巫女

①特技（趣味）　②奉職理由　③抱負

大山　紗弥　おおやま・さや

①縦開脚

②人と関わることが好きで様々な人と関われる場所で働きたかったから

③参拝者に寄り添い気持ちよく参拝していただけるように努めます

城岡　舞　じょうおか・まい

①テニス

②神前神楽や琴など日本の伝統文化に触れることで自分が成長できると思ったから

③笑顔で明るく元気よく奉仕します

柳川　月　やながわ・るな

①ルービックキューブ

②人生の節目に立ち会えることに魅力を感じたから

③一生懸命・丁寧にご奉仕します

第684回　宗像大社歌会詠草

■大西晶子選　■毎月25日〆切

早くより吾がなりいし九十九髪両耳あらわにカット果たしぬ　山本　静子

髪を切って気分一新した作者だろう。上の句〈気にしつつ伸ばして居りし〉としてみた。

眼鏡橋八十路の夫婦佇みて川面に浮ぶ紫陽花の花片　秋吉　嘉範

夫婦での旅行の一シーン。〈妻と来て眼鏡橋から見下ろせり川面に浮かぶ紫陽花の花弁〉。

許斐山のいただきあたりの薄雲の雨をふくめば浮力のよわし　佐々木和彦

発想に惹かれた。下の句を入れ替え〈浮力弱きか雨をふくみて〉とメリハリをつけては。

五月晴バラの香りを浴びにゆく誘いの呼吸ずれぬ還暦　早川　祥三

優雅な一日。下の句が分かり難いが〈還暦祝いと上手く誘われ〉あたりか。

嫌ごとの拒みの意志におどろきのパワーを出しぬ百の母はも　北野カズミ

母を大切に介護する作者。〈嫌なこと拒むパワーに驚きぬ百歳の母の意志はつよくて〉。

ポーシャ姫に追いつめられるシャイロックを憫れんだ日よ若かったなあ　山﨑　公俊

今の作者は憐れまないのだろう。国会の森友・加計問題追及などをふと連想した。

影は濃く日差しは強くなってきて街を彩る夏色絵の具　本田エリナ

夏色絵具が良い。日差しと影の順を変え〈梅雨晴れの日差しに影の濃くなって〉などと。

雨上りの水を含める梅ならむ夕明りの中を自ずから落つ　森　龍子

落ちた梅の実に感慨をもった作者だろう。二～四句〈水を含むや梅の実が夕明りのなか〉。

女子高生の襟のリボンは二十年前につけいし次女らの若さ受け継ぐ　萩原　勉

主題は若さ。字余りを整理し、二句以降〈襟のリボンに思い出す同じ制服の若かりし次女〉。

挨拶の喜寿が近づくに皆笑う校歌うたえる幸せ知りて　吉﨑美沙子

二句は挨拶の言葉と思われるので括弧に入れ、四・結句〈同窓会で校歌を歌い〉としては。

マンションの住民となり早や三年エレベーターにて幼女の笑まう　池浦千鶴子

心温まる景。〈エレベーターで幼女と笑顔かわしたり早や三年をマンションに住み〉と。

◆選者詠

名を知ればひまはり親し芯黒き〈ソーラーパワー〉小ぶりな〈小夏〉

顔大き兵士いならぶさまに咲くひまはりヒマハリ八月の畑

第655回　俳句

制服の黒髪夏の恋透かす　早川　祥三

御造営奉賛者御芳名

（平成三十年六月）（順不同・敬称略）

九〇、〇〇〇円

宗像市　山田　正

五〇、〇〇〇円

豊橋市　川口　広宜

一〇、〇〇〇円

益田市　椋木　明美
宗像市　安部　弘美

五、〇〇〇円

我孫子市　近藤　一夫
淡路市　横山　智一
生駒市　豊﨑　倫臣
大田区　菅沼　蓮生
柏　市　今里　博教
呉　市　山田　祥子
小平市　佐藤真喜緒
小平市　三谷　果愛
草加市　浦田　照美
中央区　菅藤　信也
調布市　野澤康次郎
豊島区　吉重　妙

名古屋市　飯田　素子
西彼杵郡　中村　健一
東大阪市　葉山　秀岩
福岡市　聴　励

三、〇〇〇円

大阪市　福地　昭義

二、〇〇〇円

阿蘇市　立石　佳江
阿蘇市　黒田　洋子
飯塚市　大西美知子
いわき市　千須和豊隆
嘉穂郡　吉貝　利喜
北九州市　溝田　俊一
小平市　三谷　果愛
新宮市　橋本　隆久
平塚市　花柳和小鞠
藤沢市　水野　肇
箕面市　山田　和裕
和歌山市　岡野　哲也

むなかた
葉月（はづき） 第690号
2018年8月1日発行（月刊）／宗像大社　〒811－3505　福岡県宗像市田島2331　電話（0940）62－1311（代）　http://www.munakata-taisha.or.jp/

8月 まつりごよみ

1日	総社月次祭	午前11時
	引続き　高宮祭、第二宮・第三宮祭	
	宗像護国神社祭	
7日	中津宮七夕祭	午後 8 時
	於：大島・中津宮	
15日	総社月次祭	午前11時
	引続き　高宮祭、第二宮・第三宮祭	
	宗像護国神社戦没者慰霊祭	午後 7 時
	於：宗像護国神社	

編集後記

「常識とは十八歳までに身につけた偏見のコレクションのことをいう」▼アルベルト・アインシュタインの名言である。▼意味としては、常識は役に立たない固定概念であり、疑ったほうが良いということであろうか。ただ人間が生命活動をしている以上は、この「コレクション」は増え続ける。無論、情報過多な現代社会において常識に疑問を持つこと、否定するのは難しい▼野球では、監督のサインに「待て」があることに、ラグビー部に所属していたS先輩から疑問を呈されたことがある。ラグビーでは監督のサインが存在せず、選手に行動が一任されているからである。「待て」が出てもヒットを打てば良い、簡単なことだろ。と言われたが、そのような考えにならなかった。野球部の「常識」に毒されているからである▼最初の言葉には続きがある「常識を覆すためには、先に良く常識を知っていなければならない」と付け加えられている▼「一方の常識は他方の非常識」…常識を知ることは大切かもしれないが、疑い始めると相当な数のコレクションを持っていることに気付かされる。（黒）

宗像大社